

# ドラフト制度導入以降のNPB選手の出身母体の変遷 Trends of where NPB rookies come from since the introduction of the first-year player draft

小林至  
江戸川大学社会学部

Itaru Kobayashi  
College of Sociology, Edogawa University

キーワード: NPB(日本野球機構)、ドラフト会議、社会人野球の衰退、大学野球部員の急増、  
高校野球部員、独立リーグの誕生、大学進学率

Key words: NPB, Amateur Draft, Decline of Industrial League, Rapid growth of College Baseball  
players, Highschool Baseball players, Rise of Independent League, Colledge-going rate

## 【抄録】

本稿は、日本プロ野球機構(NPB、Nippon Professional Baseball)傘下の球団に入団した日本人選手の出身母体の人数・割合が時代と共に、どのような変遷を辿ったかを検証し、考察を加えるものである。

選手の出身母体を高校、大学、社会人、独立リーグの4つに分類した。分析対象期間は1965年から2015年である。当該期間の日本社会における潮流および、そのことが日本のスポーツに与えた影響としてバブルの崩壊による企業スポーツの劇的な衰退がある。社会人野球も例外ではなく、企業チームの数は劇的に減少した。それに伴い、社会人出身者は大きく減少していそうなものだが、現実にはさほど減っていないことが確認された。

もうひとつ、当該期間の日本社会における潮流は高学歴化である。このことから推論されるのは、高校出身選手の減少と、大学出身選手の増加である。

結果は、推論の通り、高校出身選手の減少および大学出身選手の増加が顕著にみられた。ただし、その原因は、高等教育機関への進学率の向上というよりも、全入時代における、大学の特徴を出す手段(ブランディング、広告)として、学生確保の手段として、野球部を活用していることがひとつ。そして、選手にとっては、その競技能力をもって、大学進学という、キャリアを充実させる手段を得られる。高卒選手の減少と大学出身選手の増加は、大学の事情と高校球児のニーズが一致した結果である。

スポーツ科学研究, 14, 90-104, 2017年, 受付日:2017年7月1日, 受理日:2017年12月6日  
連絡先:小林至 〒2700198 千葉県流山市駒木474 江戸川大学 itaru@edogawa-u.ac.jp